

## 日韓トンネル

## 「影響客観的検証を」 韓国海洋大朴教授が研究着手

### 地域振興、採算性など探る



から

九州北部と韓国南部を  
結ぶ日韓海底トンネルが  
建設された場合、韓国や  
釜山市に及ぼす影響につ  
いて、同市の韓国海洋大  
物量システム工学科の朴

眞希教授（物流計画）が  
研究始めた。今後、一  
年間かけて経済効果や採  
算性などを調査し、来年  
八月をめどに報告書をま  
とめる。朴教授は「日韓  
トンネル構想は日本側の  
研究が先行しており、韓  
国側の視点に立つて妥当  
性を検証する必要がある  
と話している。

同トンネルは、佐賀県  
唐津市周辺から壱岐、対  
港湾都市として発展した  
ところに対し、朴教授は  
「交通研究院の報告はテ  
ーナーの裏付けが薄い」と  
指摘。「韓国が北東アジア  
の物流ビジネスの中心  
国家となるために、さま  
ざまな可能性を考えな  
ればいけない。特にトン

馬を経由し、釜山周辺に  
経緯もあり、「物流の通  
過点になる」と否定的な  
声も強く、研究や議論は  
進んでいない。

これに対し、朴教授は  
報告書をまとめ、議論  
は下火になっていた。特  
に韓国側玄関の釜山市は  
現地視察するなどし、地  
域振興、技術面、運営方  
法、採算性など多様な觀  
点でトンネルの必要性を  
研究する方針だ。



トルの影響を最も受ける  
釜山を中心に、波及効果  
を研究したい」と話し、釜  
山市の産学官の交通関係  
者でつくる「釜山交通フ  
ォーラム」のセミナーで  
講演し、既にこうした考  
えを発表。今後、英仏海  
峽を結ぶユーロトンネル  
や日本の青函トンネルを  
現地視察するなどし、地  
域振興、技術面、運営方  
法、採算性など多様な觀  
点でトンネルの必要性を  
研究する方針だ。

(釜山・野村創)